

第1号様式

(第1面)

事業活動地球温暖化対策計画書

(あて先) 川崎市長

郵便番号 101-8441
 住 所 東京都千代田区神田錦町 1-25
 氏 名 日清製粉(株)取締役社長 佐々木明久 印
 代理人 鶴見工場長 有留 美明
 (法人にあっては、名称及び代表者の氏名)

川崎市地球温暖化対策の推進に関する条例第9条第1項(同条第4項において読み替えて準用する場合を含む。)の規定により、次のとおり提出します。

事業者の氏名 又は名称	日清製粉(株)		
主たる事務所又は 事業所の所在地	川崎市川崎区大川町3-1		
該当する事業者 の要件	<input checked="" type="checkbox"/> 規則第4条第1号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第2号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第3号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第4号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 上記以外の事業者(任意提出事業者)		
主たる事業 の業種	大分類	E	製造業
	中分類	09	食料品製造業
主たる事業 の内容	小麦粉製造業		
事業者の規模	<input checked="" type="checkbox"/> 原油換算エネルギー使用量	13,913	k l
	<input type="checkbox"/> 自動車の台数		台
	<input type="checkbox"/> エネルギー起源の二酸化炭素 以外の温室効果ガスの排出の量		t-CO ₂
連絡先	担当部署	担当部署名	鶴見工場 製造課
		所在地	川崎市川崎区大川町3-1
		電話番号	044-366-5315
		FAX番号	044-355-7181
		メールアドレス	
※受付欄		※特記事項	※事業者番号

(第2面)

計 画 期 間	平成 22 年度 ~ 平成 24 年度
温室効果ガスの排出の量の削減を図るための基本方針	別添 指針様式第1号及び第3号のとおり
温室効果ガスの排出の量の削減に向けた組織体制	別添 指針様式第1号及び第3号のとおり
温室効果ガスの排出の量の削減目標及び温室効果ガスの排出の量	別添 指針様式第1号及び第3号のとおり
温室効果ガスの排出の量の削減目標を達成するための措置の内容に係る事項	・省エネ設備の導入や省エネの発掘・故障削減によるエネルギーロスの排除・不要照明切り、諸設備の空運転排除・空調設備の温度設定管理 詳細は、指針様式第1号（第4、5面）の通り
他の者の温室効果ガスの排出の抑制等に寄与する措置に係る事項	なし
その他地球温暖化対策の推進への貢献に係る事項	一般、産業廃棄物等の再生資源のリサイクルを推進し、再資源化を図る。又、廃棄物の減量化に努める。 ・取得済みのISO14001の活動の一環として、環境に関する教育を行う ・グリーン購入の推進を行う 詳細は、指針様式第1号（第6面）の通り
備 考	当社の地球温暖化対策の取組みについては、ホームページにて公表しています。Http://www.nisshim.com/csr/green/management.html

- 備考 1 欄内にすべてを記載できない場合は、別紙により提出してください。
- 2 □のある欄は、該当する□内にレ印を記載してください。
- 3 計画書には、事業活動地球温暖化対策指針に定める資料を添付してください。
- 4 ※印の欄は記入しないでください。
- 5 氏名（法人にあっては、その代表者）を記載し、押印することに代えて、本人（法人にあっては、その代表者）が署名することができます。

事業活動地球温暖化対策計画

1 温室効果ガスの排出の量の削減を図るための基本方針

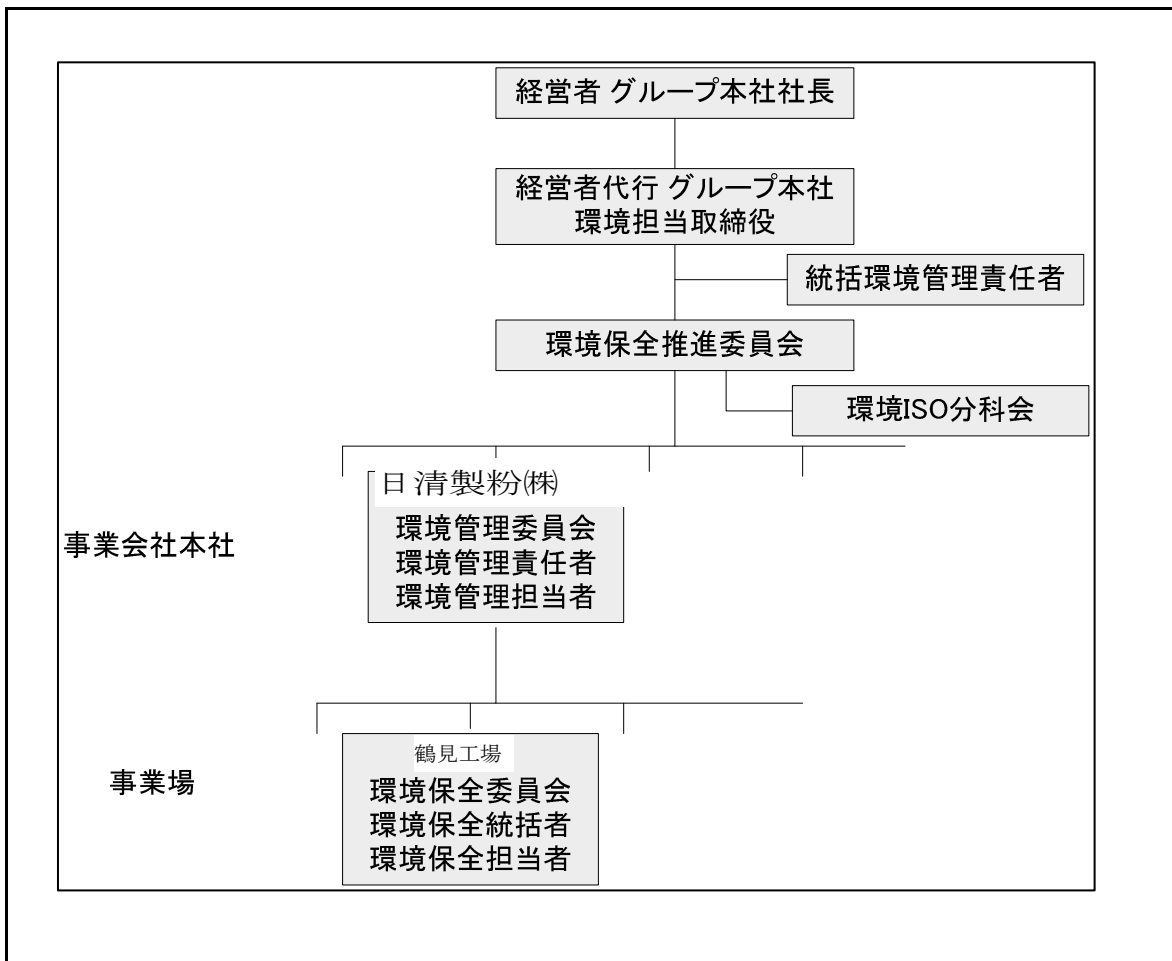
1. 事業者全体基本方針

日清製粉グループとして下記の環境基本方針により、積極的な地球温暖化対策を進めている。地球環境保全は、人類の生存と発展のための社会全体の課題であり、その社会の一員として事業を営む企業にとって、最重要の経営課題です。日清製粉グループは、「信を万事の本と為す」と「時代への適合」を経営の基本理念とし、「健康で豊かな生活づくりに貢献する」を使命として、当社が地球社会の一員であることの認識を持ち、地球規模での環境保全を図りながら自由で活力ある企業活動を目指します。

2. 鶴見事業場の基本方針

- (1) 国や地方自治体が定める環境法令・規則、その他要求事項を順守し、環境保全に努める。
- (2) 環境負荷の低減として、事業活動において、省資源、省エネルギー、リサイクルを通じて汚染の予防を図る。
- (3) 環境管理体制の整備として、環境目的・目標を設定し、定期的な見直しを行いながら、環境マネジメントシステムの継続的改善を図る。
- (4) 環境方針の公開を通じて、全員参加の取組みによる一人ひとりの意識・モラルの向上を図り、環境保全活動の推進に努める。

2 温室効果ガスの排出の量の削減に向けた組織体制



3 温室効果ガスの排出の量の削減目標等 (第 1 号、第 2 号、第 4 号該当者等)

(1) 温室効果ガスの排出の量の削減目標及び温室効果ガスの排出の量

ア 基準排出量と目標排出量

基 準 年 度	平成21 年度	目 標 年 度	平成24 年度
基 準 排 出 量	(実) 23,286 (調) 18,585 t-CO ₂	目 標 排 出 量	(実) 22,587 t-CO ₂
削 減 率	(実) 3.0 %	削 減 量	(実) 699 t-CO ₂

イ 基準排出量原単位等と目標排出量原単位等

原 単 位 の 活 動 量	単 位
基 準 年 度 の 値	目 標 年 度 の 値
削 減 率	%
延床面積、生産数量 以外の原単位を使用 した場合の理由	

ウ 目標設定に関する考え方

<p>温室効果ガス排出量を年平均 1% 以上削減する事を前提に目標を設定した。 又、計画期間の初年度に実施をしていない、基本対策については計画期間内に全てを実施することを目標設定に反映した。</p>

(2) 温室効果ガスの排出の量の削減目標 (全社目標)

<p> </p>

5 温室効果ガスの排出の量の削減目標を達成するための措置の内容に係る事項

(1) 温室効果ガスの排出の量の削減のための措置の内容

<p>事業所等に係る温室効果ガスの排出の量の削減を達成するための具体的措置</p> <p>(第 1 号、第 2 号、第 4 号該当者等)</p>	<p>○推進体制 当事業場では、グループ内の他事業場である日清ペットフード(株)、日清サイロ(株)と「環境・CO2削減リーダー会」を共同で開催しており、引き続き事業場内省エネ活動の啓蒙に取り組む。</p> <p>○小集団活動(環境・CO2削減リーダー会) ・毎月開催するリーダー会を通じ進捗管理をする。また、月別のデータを配布し、活動に活かしている。</p> <p>○省エネ設備の導入・省エネの発掘 ・低圧コンデンサ-の拡大・ダイヤ改善・ニューマエコ設備の拡大・他</p> <p>○故障削減によるエネルギーロスの排除 ・休転故障の洗い出しをし、対策し、削減する。</p> <p>○不要照明切り、諸設備の空運転排除 ・人間センサーの検討・省エネランプに取替え・コンプレッサーの圧力見直し・他</p> <p>○空調設備のこまめな温度調節と運用管理 ・電力削減手順書に従う</p> <p>○一般・産業廃棄物の再生資源のリサイクルを推進し、資源化を図る。また、減量化を図る。 ・廃棄物の数量把握と発生の抑制、分別収集の呼掛けと定着化、システムの体制の整備と環境への配慮</p>
<p>自動車に係る温室効果ガスの排出の量の削減を達成するための具体的措置</p> <p>(第 3 号該当者等)</p>	

(2) 再生可能エネルギー源等の利用計画及び前年度末における利用実績

ア 再生可能エネルギー源等の利用に係る考え方

工場構内に於ける再生可能エネルギーの使用を検討する。

イ 再生可能エネルギー源等の利用計画及び利用実績

設備等の種類	概要(規模、導入場所、性能等)	導入年度	備考
太陽光発電	規模：4kW 導入場所：工場事務所	平成23年度	予定
太陽光発電	松下電工(株)製 18kw×2第 事務所	平成19年度	
風力発電	(株)第1テクノ 1kw×2台 厚生棟屋上に設置	平成20年度	

ウ 再生可能エネルギー源等の価値の保有計画及び保有実績

種類	概要(規模、場所等)	保有年度	備考

(3) 基準年度の末日までに完了した主な対策内容

省エネルギー設備の導入については、基準年度以前から積極的な取組みを行っている。具体的に下記に例を示す。

- ・エネルギー管理手順書の設定(ボイラ-・チラ-・他15項目)⇒H20年8月
- ・低圧コンデンサ-の導入
- ・高効率モータへの更新
- ・厚生棟用温水ボイラ-をエコキュートに取替え⇒(株)前川製作所製 蓄熱調整契約を結ぶ
- ・平倉庫(10.11号)LEDランプ化⇒水銀灯300w40台をカメイ(株)製72wに40台取替え(H21年6月)
- ・コンプレッサ-の吐出圧力の見直し
- ・空気機械の適正回転数化

6 他の者の温室効果ガスの排出の抑制等に寄与する措置に係る事項

なし

7 その他地球温暖化対策の推進への貢献に係る事項

1. 廃棄物の減量化・分別化の推進を図る。
2. 取得済みのISO14001の活動の一環として、環境に関する教育を行う。
3. グリーン購入の推進を行う。
4. 川崎温暖化対策推進会議(OC川崎エコ会議)への参加を行う。

8 前年度の温室効果ガスの排出の量等の実績

(1) 事業者単位

ア 第 1 号、第 2 号、第 4 号該当者等

(実)	23,286	t-CO ₂
(調)	18,585	

イ 第 3 号該当者等

(実)		t-CO ₂
(調)		

(2) 事業所等単位 (第 1 号、第 2 号該当者等)

ア 年間の原油換算エネルギー使用量が 1,500k_l 以上の事業所の一覧

事業所の名称	事業所の所在地	日本標準産業分類 細分類番号	事業所に係る 事業の名称	温室効果ガス の排出の量
鶴見工場	川崎区大川町3-1	0962	小麦粉製造業	23,286 t-CO ₂
				t-CO ₂
				t-CO ₂
				t-CO ₂

イ 年間の原油換算エネルギー使用量が原油換算で 500k_l 以上 1,500k_l 未満の事業所の一覧

事業所の名称	事業所の所在地	日本標準産業分類 細分類番号	事業所に係る 事業の名称	温室効果ガス の排出の量
				t-CO ₂
				t-CO ₂
				t-CO ₂
				t-CO ₂

ウ 年間の原油換算エネルギー使用量が原油換算で 500k_l 未満の事業所の一覧

エネルギー使用量の規模	事業所数
400~500k _l 未満	
300~400k _l 未満	
200~300k _l 未満	
100~200k _l 未満	
100k _l 未満	

(3) 事業所等単位 (第 4 号該当者等)

ア 物質ごとの年間の温室効果ガスの排出の量 (二酸化炭素換算) が 3,000 t 以上 (二酸化炭素の場合はエネルギー使用に伴い排出したものを除く。) の事業所の一覧

事業所の名称	事業所の所在地	日本標準産業分類 細分類番号	事業所に係る 事業の名称	温室効果ガス の排出の量
				t-CO ₂
				t-CO ₂
				t-CO ₂
				t-CO ₂

イ 物質ごとの年間の温室効果ガスの排出の量 (二酸化炭素換算) が 3,000 t 未満 (二酸化炭素の場合はエネルギー使用に伴い排出したものを除く。) の事業所の数

事業所数	
------	--